
テイルズオブザワールド レディアントマイソロジー 3 ~ 龍は閃光のように・・・ ~

颯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テイルズオブザワールド レディアントマイソロジー3 龍は閃光のように・・・

【Nコード】

N9968Z

【作者名】

颯

【あらすじ】

世界中の守り手、‘デイセンター’、太古より予言されていたそれは、世界を守護するために現れる・・・

「世界樹」とその「世界樹が生み出したとされる星晶」というエネルギー鉱物で発展を続ける世界、ルミナシア

しかし、星晶の力で産業が発展する国々がある一方で、それらの国から植民地化を強要されたり、恵みを奪われる国もありました・・・

空を駆ける船、バンエルティア号を拠点に活動するギルド「アドリビトム」の面々は、そういった恵みを奪われる人々を助けるために活動をしています。

ある日、アドリビトムに所属する少女カノンノは、空から落ちてきた主人公カイトと、光の中から現れたシュウ・・・彼等には自分の名前の記憶がなく、目的もわかりません。
行く当てのないかれらはカノンノに連れられ、アドリビトムに入ります。

新たなレディアントマイソロジーをお楽しみください。

プロローグ 始まり

???

『ゴオオオアワアアアアツ!!!』

4本の足に翼を生やした赤い竜の咆哮が……この場所に響き渡った……

たくましかった翼はボロボロでもう空も飛べない……角は半ばこころから折れ、前両足と右後ろ足は爪が折れ、尻尾は切断されていて、もう戦えるような状態ではない……

???

「こんなものか……太古の世界……ルミナシアーの力をもったドラゴンといってもこの程度……」

その竜をこのような姿まで追い込んだ……いや、まるで玩具の様に遊んだ人……いや人ではない。体には水晶のようなものをたくさんつけ、髪の色は白く毛先だけが青い……左目は大きな貝で覆い尽くされ、右頭部には螺旋状に渦巻く貝がついている。

???

「とどめだ……世界創造のメルト!!!」

彼を中心に花のような魔方陣のようなものが展開され炎、氷、雷等の連続の攻撃が竜を襲った……

『ガアアアアアアアアアアツ!!!?』

竜は攻撃をたてつづけに受け、吹きとんだ。

そして壁であろう部分に叩きつけられ、その壁が破壊した……

どうやらこの場所は高いところにあるようだ……ピクリとも動
かず海面へと落下していった。

???

「……仕留め損ねたか……まあいいだろう、この高さだ……海面にたたきつけられて死ぬだろう。」

そうして彼は闇へと消えていった……

プロローグ 落下

三人称 side

カノンノ

「今日は世界樹がよく見えるね・・・」

ピンクの髪のかわいらしい少女がたずねる。

ロックス

「ええ。何かいいことがあるかもしれませんね。」

空を2枚の羽を器用に使って飛んでいる小さな生物が答えた。

カノンノ

「うん。」

ロックス

「ん？あれは・・・」

カノンノ

「どうしたの？ロックス」

ロックス

「いえ・・・あれはいつたい・・・」

ロックスが見ていたほうにカノンノは向くそのには・・・

カノンノ

「ん？つてあれ人？」

ロックス

「こっちに落ちてきています！！」

カノンノ

「キヤアアアア！！」

『ドスン……』

仰向けになつて落ちてきたのは少年だった……まずはじめに目に入つたのは髪の色……まるです

べてを燃やすような……でもどこかに冷たさを覚える蒼い髪……

・服は黒いジーパンに白のシヤ

ツ、そのうえに赤と黒のチャックの服を羽織つて、そのうえに黒のフード付のロングコートを着てい

た……そして背中には見たこともないような剣が提げられていた。

カノンノ

「……ロ、ロックス。急いで医務室に連れて行くよ。」

ロックス

「か、かしこまりました。」

数時間後

???

「……っう……くう。ウワァアアアアア!」

カノンノ

「キヤア!」

???

「はあ……はあ……はあ……ここはどこだ?」

アニー

「あ、ようやく目が覚めたのね。ここは医務室ですよ……展望台で倒れていたあなたを見つけてここで治療していたの。」

???

「あ、ありがとう。」

アニー

「お礼なら今あなたの奇声に驚いたこの子に言ってちょうだい。倒れていたあなたをここまで運んでくれたの。」

???

「え?あ、ごめん。君が俺を?」

カノンノ

「うん。私の名前はカノンノ。カノンノ・グラスバレーよ。あなたは?」

カイト

「俺はカイト、カイト・バナージ。さっきはありがとつな。」

カノンノ

「ううん。気にしないで。」

そんな会話をしているとアニーが、

アニー

「あなた、すごい怪我をしていたのよ？しかも空から落ちてくるし……」

カイト

「空から？怪我……って本当だ。」

突然青い髪の女の人が入ってきた。

アンジユ

「あら？目が覚めたのね？私はアンジユ、この船のリーダーをしているわ。」

ロックス

「僕はこの船でコンシエルジュで、ロックスプリングスと申します。ロックスとお呼び下さい」

アニー

「あら。申し後れました。私は医務室でお手伝いさせていただきます、アニー・バースと申します。」

カイト

「俺はカイト・バナージだ。」

アンジュ

「ところであなた何者？空から落ちてきたってのも気になるし……」

カイト

「え？俺は……あれ、俺は……」

アンジュ

「？どうしたの。」

カノン

「もしかして記憶が……」

カイト

「ああ……みたいだ……何も思い出せない。」

アンジュ

「そう。なら仕方ないわね。記憶の無い状態でどこかの街に出したら、それこそ危険ですもの」

アンジュは少し考える仕草を見せると何か思い付いたようにカイトへと向いた。

アンジュ

「……そうね。なら、記憶が戻るまでこのギルドで働かない？働いてさえくれれば、ちゃんと衣食住ついた待遇をするわよ」

カイト

「ギルド？」

アンジユの言葉にここにいた全員が驚く。

アンジユ

「ええ。いろいろなギルドがあるけど、このギルドは、人を助けるのを目的としたギルドよ。」

カイト

「俺が・・・人を・・・助ける・・・」

アンジユ

「そう。」

カイトが下を向いて考えているとカノンノが元気そうにカイトに迫ってきた。

カノンノ

「そうだよ。一緒に働かない？まあここに入るために入団テストみたいなものもあるけど、私も手伝うからさ。」

カイト

「カノンノさん・・・うん、わかった・・・アンジユさん。いますぐに試験をお願いします。」

アンジユ

「だめ。」

カイト

「つり?」

アンジュ

「あなたそんな体で試験受ける気? 試験は後日よ。今日はゆっくりねむりなさい。」

カイト

「あ、はい。」

アンジュ

「それじゃあみんな、戻るわよ。」

そういいながら、アンジュを先頭にカノンノ以外は医務室を後にした。

そうしてカノンノはというと・・・

カノンノ

「ねえカイト君。見て欲しい物があるんだけど。」

カイト

「見て欲しいもの?」

カノンノ

「うん。これ・・・」

カノンノはおそらく自分が書いたであろう絵をカイトに見せてきた。

カイト

「これ……どこかで……見たことがある。」

カノンノ

「え？」

カイト

「カノンノさん。これをどこで？」

カノンノはあわてた表情で答える。

カノンノ

「え？えっと……それは、た、たまに頭のなかにみたことないような光景が広がって、その見え

た風景を筆でなぞって、書いたのがこれらの絵なの……でもこれを見たことがあるって言う人はカ

イト君が初めて……」

そのカノンノの表情はどこかうれしそうなものがあった。

カイト

「どうした？」

カノンノ

「え？……他の人にも見せたけど、誰もこの風景を知らないの。それに、作り話でしよって、笑わ

れちゃうの……」

カイト

「……作り話じゃねえよ。」

カノンノ
「え？」

カイト
「絶対ににこの場所見つけて、カノンノさんは嘘を言っていないって証明してやるよ・・・それにこれは見たことがある気がする。だから心配するな・・・」

カノンノ
「あ、ありがとう。カイト君。」

カイト
「あ、あと、カイト君じゃなくてカイトって呼んでくれないか？」

カノンノ
「え？どうして？」

カイト
「ん〜何でだろ・・・呼び捨てで呼ばれたのかな・・・それとも記憶があったころはカイトって呼ばれていたのかも。」

カノンノ
「・・・うん。わかった。その代わりに私もカノンノって呼んで？」

カイト
「・・・わかった。あらためてよろしく。カノンノ。」

カノンノ
「うん。こちらこそ。カイト。」

物語が始まる。

いまここに、龍の騎士と光の騎士とカノンたちの

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9968z/>

テイルズオブザワールド レディアントマイソロジー 3 ~ 龍は閃光のように

2011年12月31日00時45分発行